

いわゆる「女性の職業」とされてきた保育士や看護師、介護福祉士などのケア職に男性の従事者が少ないのはなぜか。叡啓大ソーシャルシステムデザイン学部の瀬古素子准教授（写真・ジエンダー学）に聞いた。



長年、女性が育児や家事の経験を生かして担ってほしいと期待されていたという背景がある。た



ケア職 社会的意識の見直し必要

叡啓大の瀬古准教授

だそれは性別による固定意識で、世界的にも同じ状況だ。

ケア職への従事を男性が希望するようになるには、その社会的意識を見直して給与水準を上げることが必要だろう。そして、私たちサービスの受け手の考え方を変えることも欠かせない。

男性の歯科衛生士や保育士が増えれば、子どもたちにとって「見たことのある」存在になる。ケアに関わる仕事は「女性がやるもの」という偏った意識は薄れ、将来的な職業選択の可能性が広がる。